教員名	熊谷　圭知　(KUMAGAI　Keichi)
所　属	文教育学部人文科学科地理学講座
学　位	社会学修士（1981　　一橋大学）
職　名	教授
URL　／　E-mail	kumagai@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

地域　／　文化　／　開発　／　ジェンダー　／　パプアニューギニア

◆主要業績　　総数　（　2　）件

・熊谷圭知　(2006)「パプアニューギニア――新しい地(域)誌をめざして――」
2006 年人文地理学会大会研究発表要旨集，pp.16-19.
・熊谷圭知　(2007)「変わらぬ村，変わる人々」月刊みんぱく 31-2 , p.14.

◆研究内容

１．ローカル・センシティヴな開発とジェンダー研究の構築をめざして
2006 年度から、私が研究代表者となった科研費の研究会がスタートした。年度内に 2 回の研究会を行なった。2007 年 1 月には、21 世紀 COE「ジェンダー研究のフロンティア」の同名の研究プロジェクトと共催で、Beyond the Difference: Repositoning Gender and Development in Asian and the Pacific Context と題した国際ワークショップを実施した。公募を含む 12 名の若手研究者に、インド、インドネシア、イギリスから 3 名のゲスト講師が加わり、活発な議論を交わした。現在その英文報告書を作成中である。
2.パプアニューギニア地域研究
ローカルな人々の開発観と開発実践をテーマに、2006 年 7－8 月にフィールドワークを実施し、その一端を、熊谷　(2007)で紹介した。11 月の人文地理学会では、特別研究発表として、「パプアニューギニアーー新しい地　(域)誌をめざしてーー」と題した報告を行ない、パプアニューギニアの地域的多様性と相同性の現実、地域誌を描くという実践の持つ意味について語った。

◆教育内容

学部の授業では、「フィールドワーク方法論」「地域研究」「人間と空間」「グローバル文化学総論」「オセアニア社会文化論」などの科目を担当した。フィールドワーク方法論は、新たに担当した授業であったが、質的研究を形作る手法としてのフィールドワークの意義と課題について、理念的な枠組みと実践課題の双方から提示した。大学院の授業では、David Mosse　の Cultivating Development ほかを取り上げ、開発実践のエスノグラフィーの課題と可能性について議論した。私が主宰する COE のプロジェクト　(ローカル・センシティヴな「開発とジェンダー」政策の構築）が主催して実施した国際ワークショップ(2007 年 1 月）では、大学院生が多数報告し、英語での発表・討論に参加して、大きな成果を収めた。

◆将来の研究計画・研究の展望

１.「ローカル・センシティヴなジェンダーと開発」というテーマの成果刊行
これについては、現在理論的・実証的な検討を進めており、２年後の科研費の研究会終了後に、科研のメンバーを執筆者とした一般書を刊行したいと考えている。この書は、日本の援助政策や開発実務にも貢献するものになる。
２．グローバル化の中のパプアニューギニアの地域誌の刊行。これまでの研究成果を集約して、単行本として、一般読者に読んでもらえるような形で提供する。数年以内には実現できる見通しである。

◆受験生等へのメッセージ

私がパプアニューギニアと付き合い始めて、もう 28 年になります。都市周縁部の掘っ立て小屋集落や、奥地の村をフィールドワークしながら、人々との付き合いを重ねるうちに、地域研究と開発実践の二つの領域を往還するようになりました。途上国を対象とする調査研究には、冷静な頭脳と熱い心、理解と共感の双方が必要です。西欧中心的な概念や理論だけに基づいて、研究対象を他者として捉え、分析するだけでは、先進国が途上国を支配する力が強まるだけで、相互の格差や距離は縮まらないように思います。お互いの間に横たわる違いをきちんと見据え、その差異を大切にしながら、そこにとどまらない交流や協働の可能性を探ろうとする、そんな学生を育てたいと思っています。